

平成 15 年 度

新潟県放射線監視センター年報

第 2 卷

平成 16 年 12 月

新潟県放射線監視センター

は じ め に

新潟県における環境放射能の測定は、昭和36年に一時中断されていた米ソの大気圏における核実験が再開され、わが国に相当量のフォールアウト（放射性降下物）が降下したことに対応する「放射能測定調査（科学技術庁）」受託に始まります。フォールアウトに関する調査は、現在でも都道府県、関係省庁及び国立試験研究機関等で環境放射能水準に関する調査・研究として実施されており、一般環境における環境放射能を把握する重要な調査となっています。

東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所に対する放射線監視調査は、昭和60年1月から開始された1号機の試運転に始まりますが、運転前の昭和45年から柏崎刈羽地域及びその周辺の環境放射能調査を行い、バックグラウンドレベルの把握を行っているところでもあります。

監視体制の整備につきましては、昭和58年3月に放射線監視の中核となる放射線監視センター棟、昭和58年度に環境放射線監視テレメータシステムの整備、さらに平成11年9月のJCO事故を契機とした原子力防災の強化対策として設置された原子力防災センター（緊急事態応急対策拠点施設、オフサイトセンター）の整備に合わせ、放射線監視センターの現地機関である柏崎刈羽放射線監視センターを一体的に整備し、環境放射線監視の体制強化、対応の迅速化等を図ったところでもあります。

放射線の監視調査項目としては原子力発電所周辺に設置した9局の自動観測局による空間線量率の連続測定、周辺地域及び対象地域25地点による積算線量（3ヶ月集計）の測定及び環境試料（大気、水、農産物、海産物等）中の放射性物質の測定を行っておりますが、速やかに正確な調査情報を県民の皆様にお届けすることが責務であると考えております。そのため、本年度もデータ表示局やホームページでのリアルタイムデータの公表を行う他、正確で迅速な分析方法の開発・検証やデータの変動要因把握等の研究など、研鑽を重ねているところでもあります。

このほど、平成15年度における環境放射線に関する調査結果及び調査研究成果を取りまとめ、新潟県放射線監視センター年報第2巻を発刊することになりました。皆様の忌憚のない御意見を頂ければ幸いです。

平成16年12月

新潟県放射線監視センター所長

鈴木 博 之

目 次

I 業務報告編

1 運 営	3
1・1 沿 革	3
1・2 施設・設備の概要	3
1・3 組 織	6
1・4 予算・決算	7
1・5 主 要 備 品	7
1・6 行 事	8
1・7 外部委員会等への参画	10
1・8 外部団体からの表彰	10
2 業務概要	11
2・1 柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査	11
2・2 巻原子力発電所予定地周辺環境放射線調査	12
2・3 環境放射能水準調査	12
2・4 原子力防災訓練	13
2・5 調査研究業務	13
2・6 その他の業務	15

II 研究報告編

1 研究報告	21
【技術報告】	
1) 農産食品等の ^{137}Cs と ^{90}Sr 濃度の経年推移と分布	21
加藤 健二・山崎 興樹・笠原 貢・昆 信芳・殿内 重政	
2) 新潟県内の環境中トリチウム調査	31
笠原 貢・加藤 健二・山崎 興樹・昆 信芳	
【技術資料】	
1) 巡回監視車による柏崎刈羽周辺地域の環境放射線測定 (2)	36
坂上 央存・丸田 文之・藤巻 広司・殿内 重政	
2) 環境放射線監視情報共有システムの概要について	52
丸田 文之・加藤 健二	
2 学位論文概要	56
1) Studies on factors associated with the variations of environmental radiation dose	56
Koki Yamazaki	
3 他誌発表	66
4 学会等発表	66

III 資料編

新潟県放射線監視センターホームページ (平成15年度一部更新)	69
自動観測局説明用立て看板	70